



応用行動分析学ってなに？



本日の目標

- 子どもの行動を、応用行動分析学の基本的考え方に従って、分析できる。
 - 分析の結果にもとづき、子育て方法について検討できる。
- 

応用行動分析学は・・・

- 応用行動分析学(ABA)は、証拠(evidence)に基づき、体系化された行動の原理である。
- 行動の原理に基づく分析により、行動の予測や、操作が可能になる。また、行動の誤学習を修正できる可能性がある。

しかし

- 「用語が難しい」、「データ(記録)の収集にかかる負担が大きい」、「誤解」により現場では拒否されることも・・・

応用行動分析学と介入

応用行動分析学にもとづく介入は、頻繁に使用される治療法の一つとされている
(Green, Pituch, Itchon, Choi, O'Reilly, & Sigafoos, 2006; Stahmer, Collings, & Palinkas, 2005)

主な研究領域

身辺自立・コミュニケーション指導・アカデミックスキル指導・余暇指導・社会的スキル訓練・問題行動の改善・親訓練etc



行動の原理で説明する

行動の前・行動・行動の後



なぜ、テレビのリモコンを押すのですか？

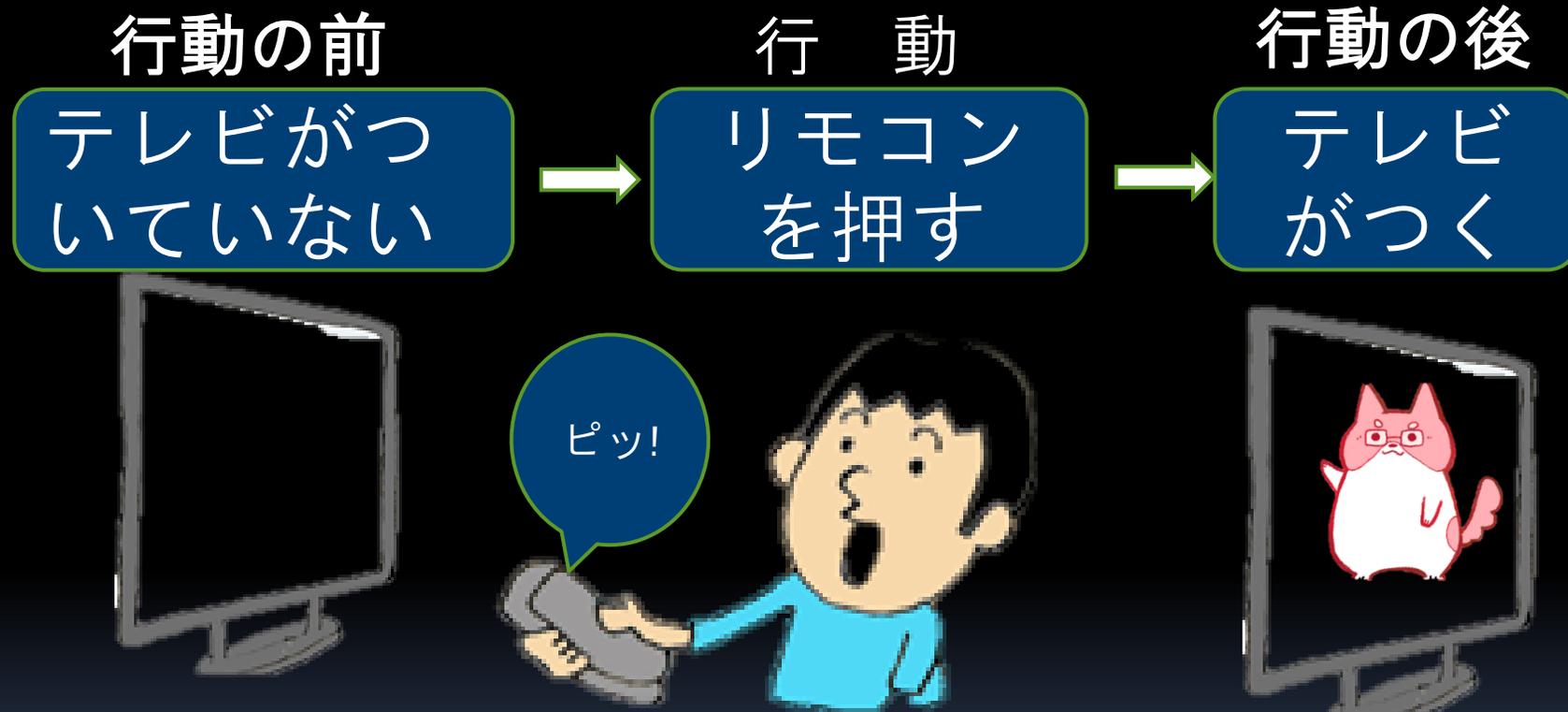


あなたは、なぜリモコンのボタンを押すのですか？

- 「テレビが見たいから」という説明は一見、正しく思える・・・確かに、多くの人はこの説明に納得するであろう。
- しかし、果たしてみんなが同じ理由だろうか？
- ちなみに私は・・・???

これでは、当たるも八卦、当たらぬも八卦です・・・行動の理解は占いではないのです。ハズレた解釈で対応を検討してもうまくはいきません。絶対に当たる行動の理解とは・・・???

行動の説明として・・・



人の行動は、『行動を起点に、前後の3つの関係で説明する』。これを三項随伴性と言います。

ここで重要なルールを!!



「強化」
と名づけます

ここで重要なルール2!!

「強化」には、
ファーストネームがある・・・

正負の計算って、覚えていますか？
「正」は足し算、「負」は引き算。

- 行動の後の事象が、行動の主体に「足されていた」ら、それは「正の強化」。
- 行動の後の事象が、行動の主体から「引かれていた」ら、それは「負の強化」。

覚えましょう!

人の「行動の原理」

- 「行動」が増加、あるいは高い水準で維持している場合、その行動の「後」には、「強化」している事象が必ずあります。

【足し算】 = 【正の強化】 = 【要求行動】

1)モノや活動が得られる、2)好ましい感覚
が得られる、3)人の関わりが得られる

【引き算】 = 【負の強化】 = 【逃避・回避行動】

4)嫌なモノや活動から逃げる、5)嫌な感覚
を防ぐ、6)人を拒否する」

大泣きサフロウ その一



絵：さわこ まりも & じゅんこ

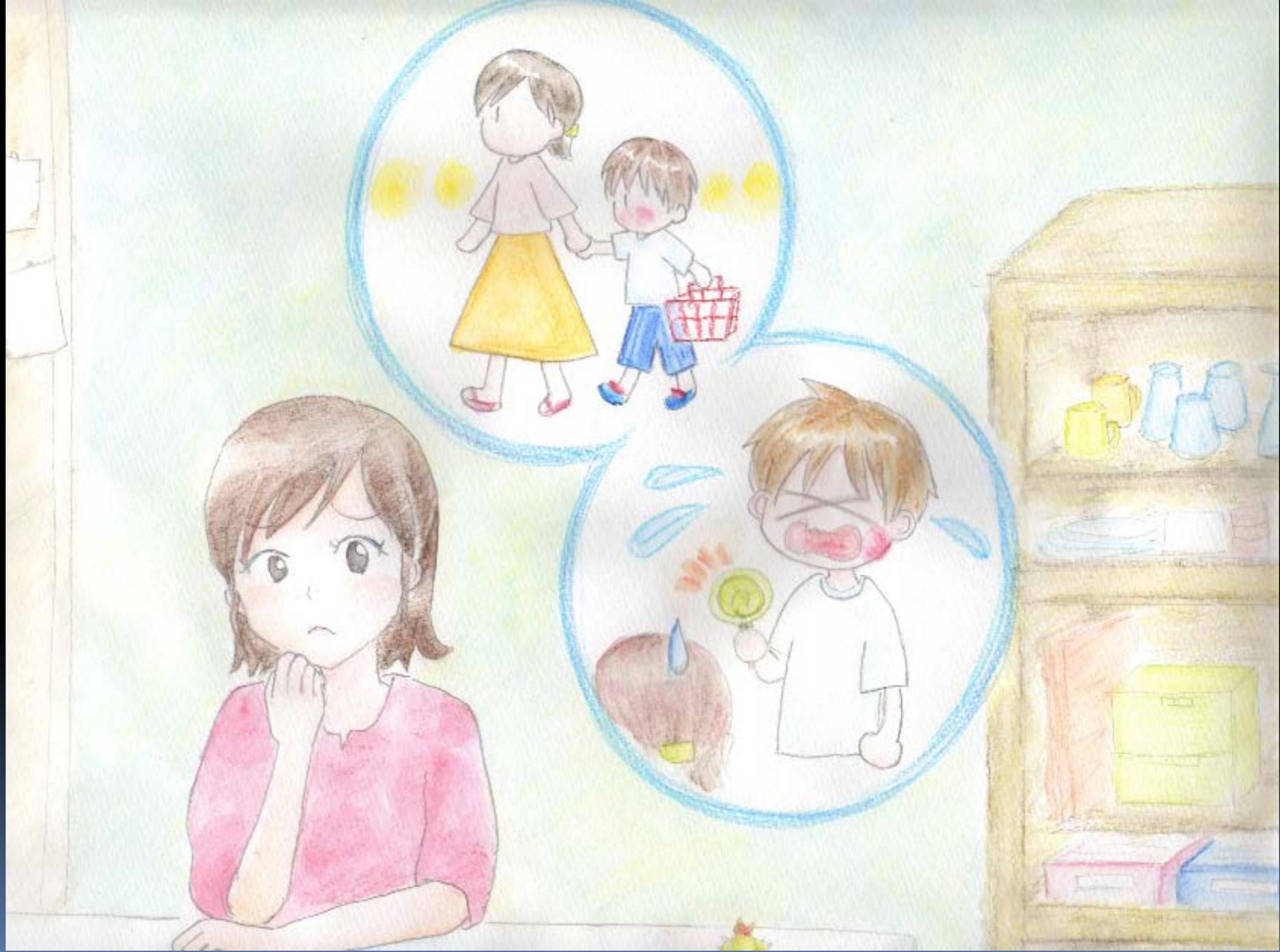












行動を分析する1



Q₁ : 「行動」は「正の強化」「負の強化」
のどちらで生起・維持していますか？

Q₂ : この「大泣き行動」は何を目的として
起こしている行動ですか？

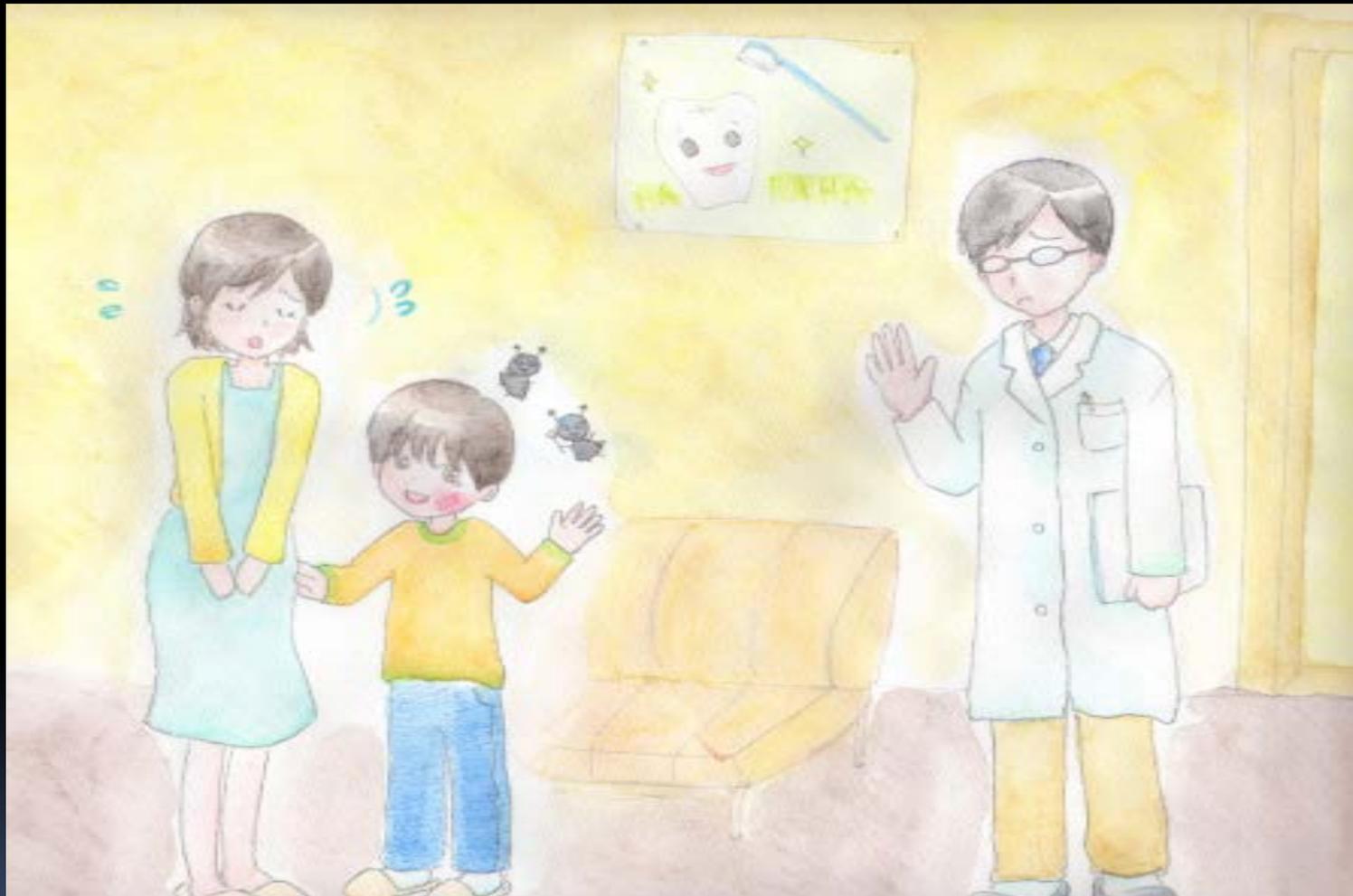
答えは・・・



A₁：お菓子を「得て」行動が増えている。
すなわち「正の強化」。

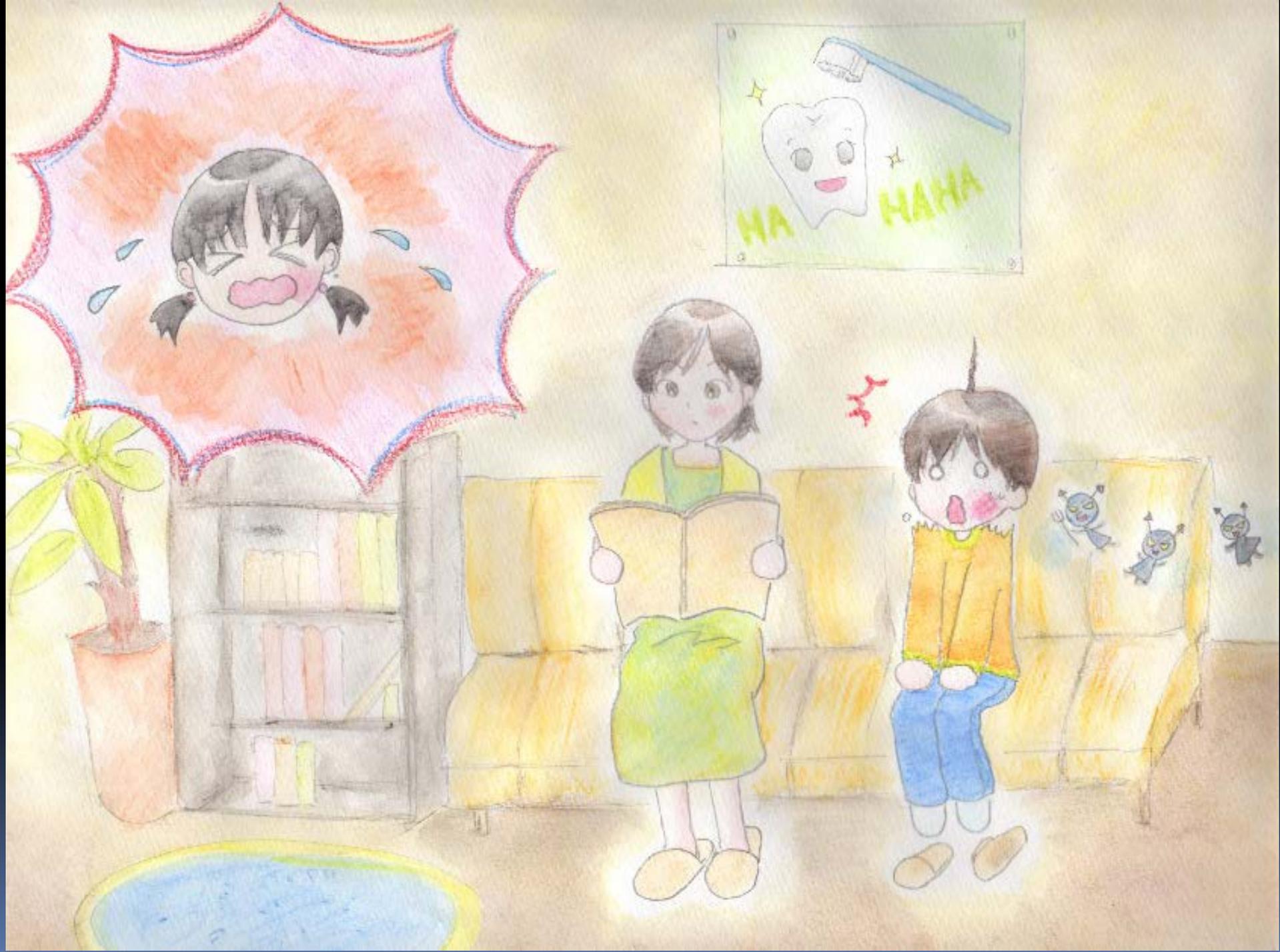
Q₂：この「大泣き行動」は、お菓子を
得るための行動。

大泣きサフロウ その二

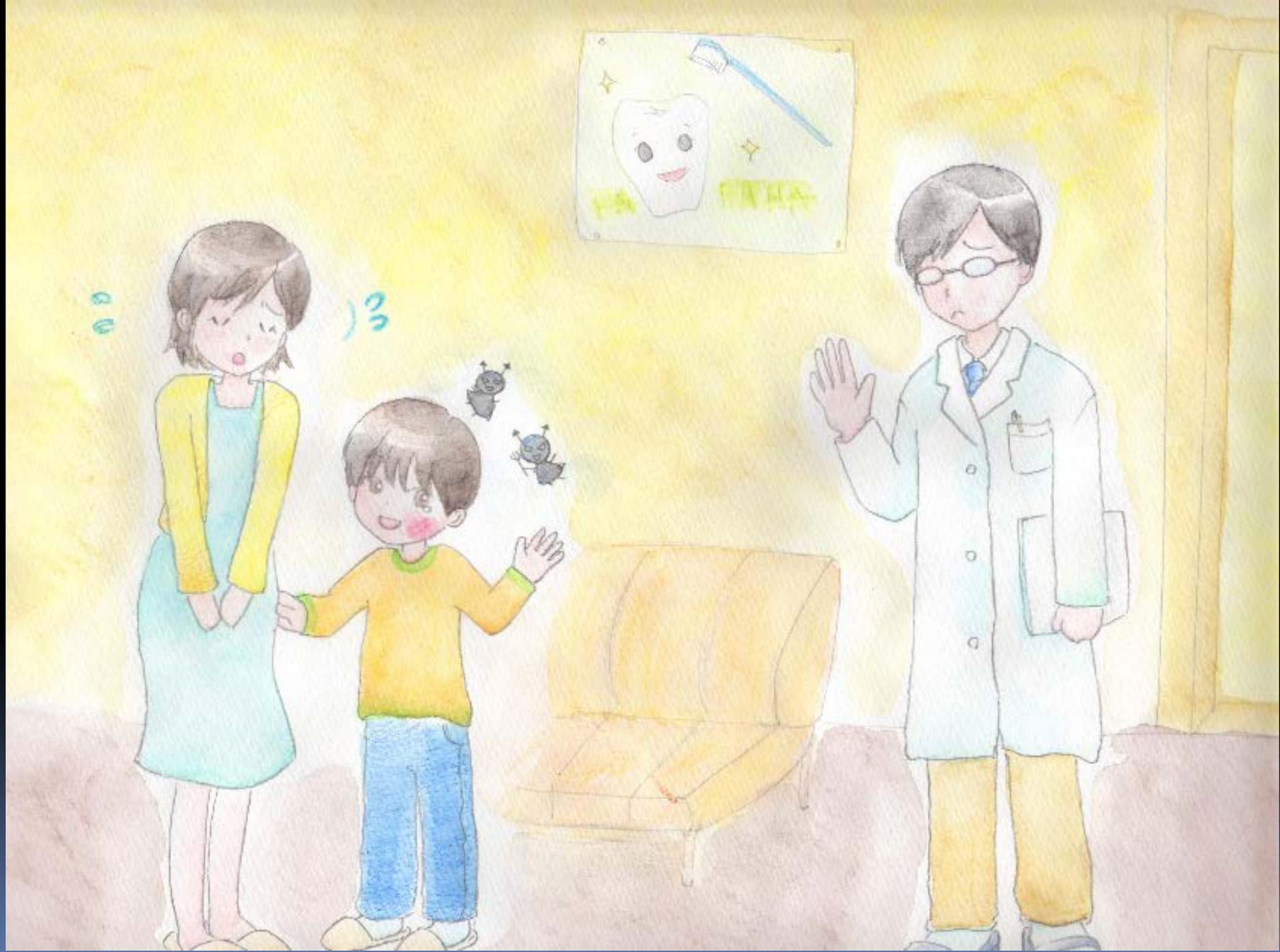


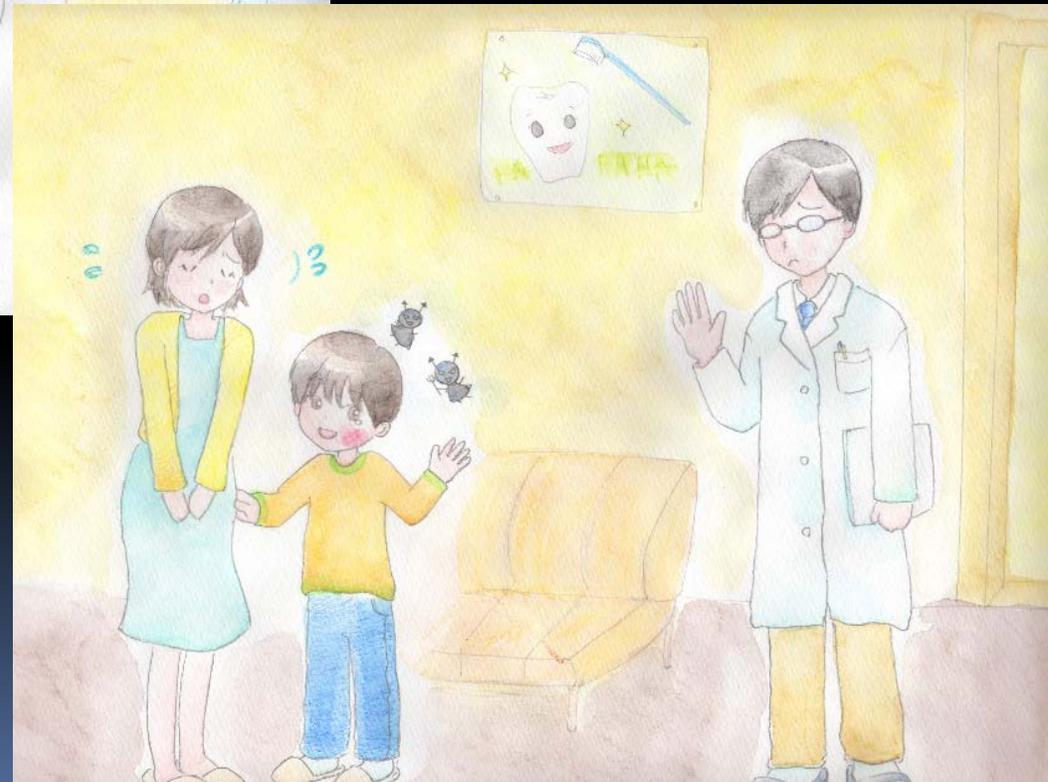
絵：さわこ まりも & じゅんこ











行動を分析する2



Q₁ : 「行動」は「正の強化」「負の強化」
のどちらで生起・維持していますか？

Q₂ : この「大泣き行動」は何を目的として
起こしている行動ですか？

答えは・・・



A₁ : 「治療から逃げられる」事で行動が増えている。すなわち「負の強化」

A₂ : この「大泣き行動」は治療から逃げる事を目的としている。



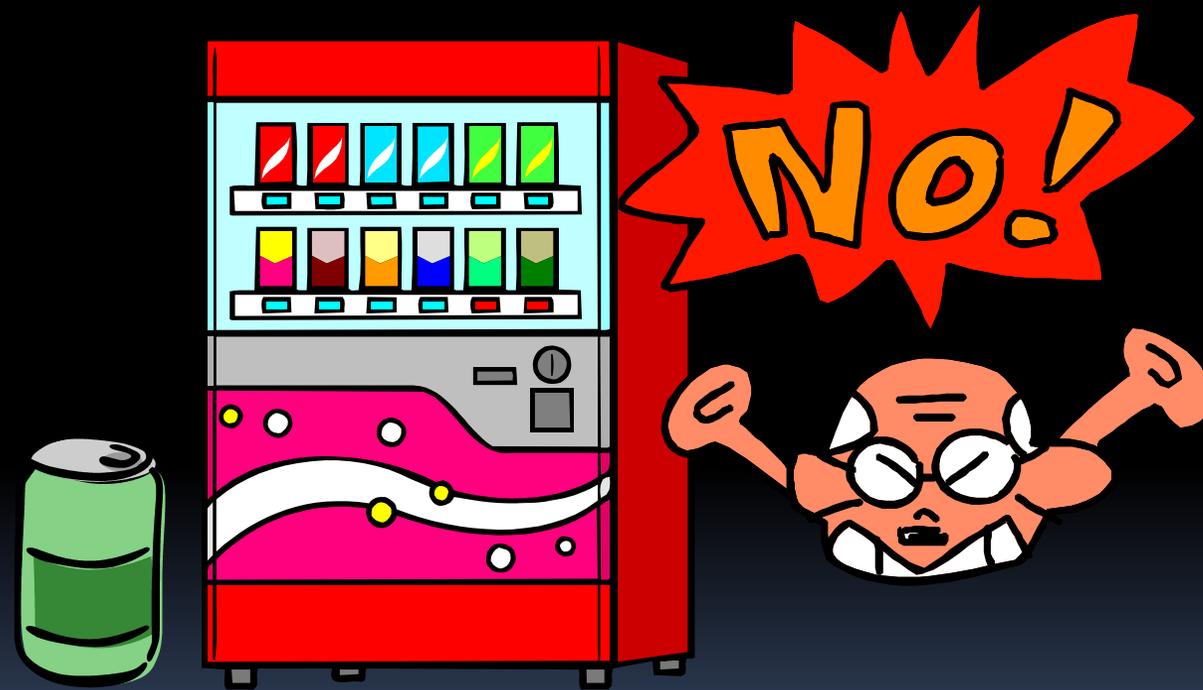
もし「行動の後に、強化」が起
こらなければ・・・

「強化」によって増えていた、もしくは維持し
ていた行動も、その「強化」がないと当該の
行動は減少していきます。このような手続き
を「消去手続き」と言います。



ただし、これには注意が必要す・・・
なぜなら

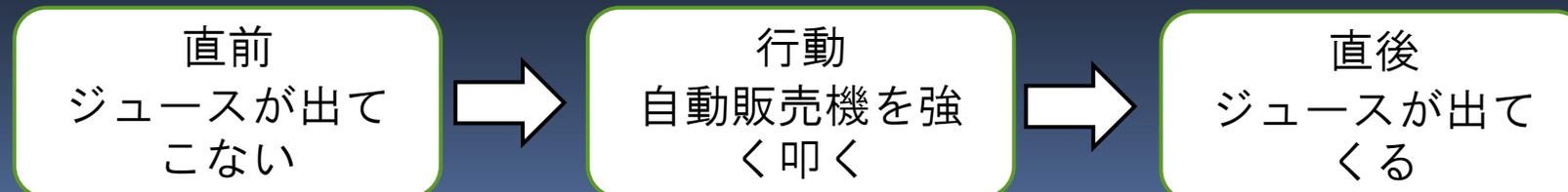
もしも、自動販売機からジュース
が出てこなかったら・・・



強化事象の急激な遮断によるリスク

- しばらくは、しつこく続け。行動はすくには減らない。
- 時に急激な行動の増加がみられる。
- 攻撃的な行動が起きやすくなる。
- そして、“いずれ”消失することになる。

こうした行動が生起している時に、「強化」すると・・・





対応を検討しよう

幸せな生活を目指す

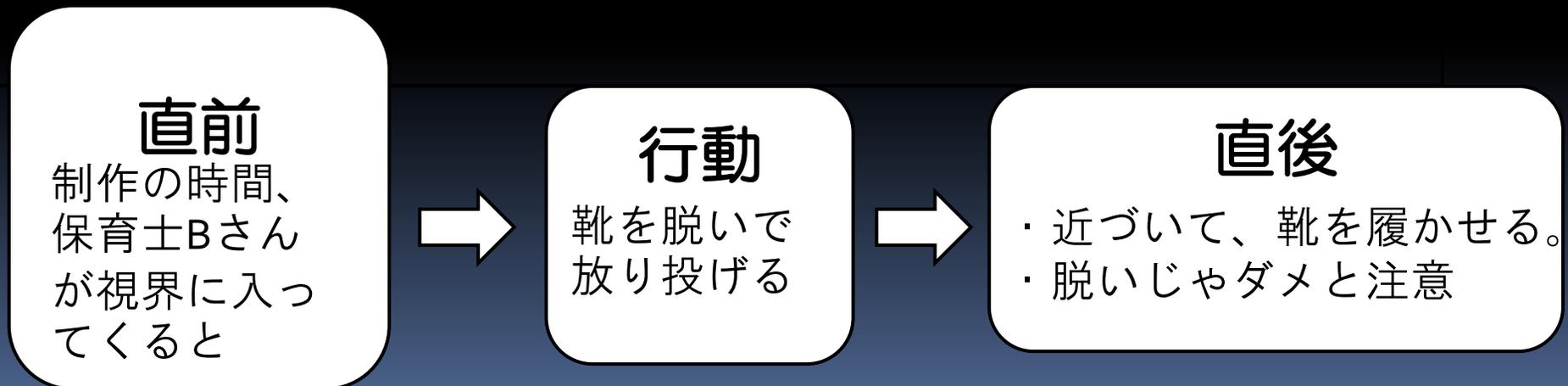


人の「行動の原理」から考える

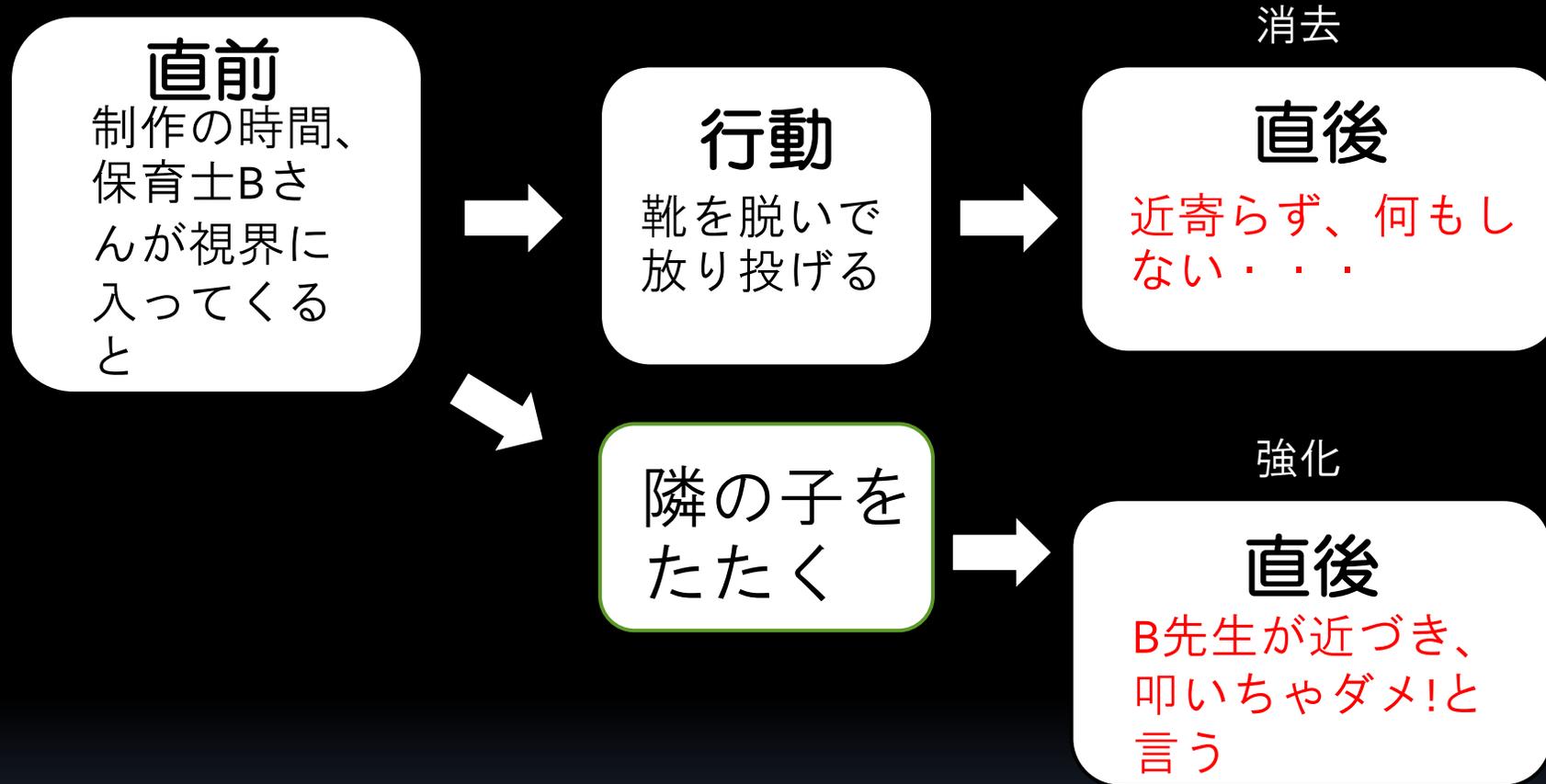
- 生起している行動は、その前の事象により「誘発」され、そしてその後の事象により「強化」されています。
- 対応のツボは、行動それ自体をなんとか変えようとするのではなく、「前・後の事象を変更する」ところにある。前・後の事象が変わると、行動は自ずと変化します。

三つの関係で説明する(例)

A君は、制作の活動の時に、保育士Bさんが視界に入ると、履いていた靴を脱いで、放り投げます。保育士Bさんは、そばに近寄り、靴を履かせA君から離れます。すると、A君はBさんが視界に入ると、すぐにまた靴を脱いで投げました。保育士Bさんは「脱いじゃダメ!」と注意して靴を履かせます。このようなやり取りが政策の時間の間、頻発しています。



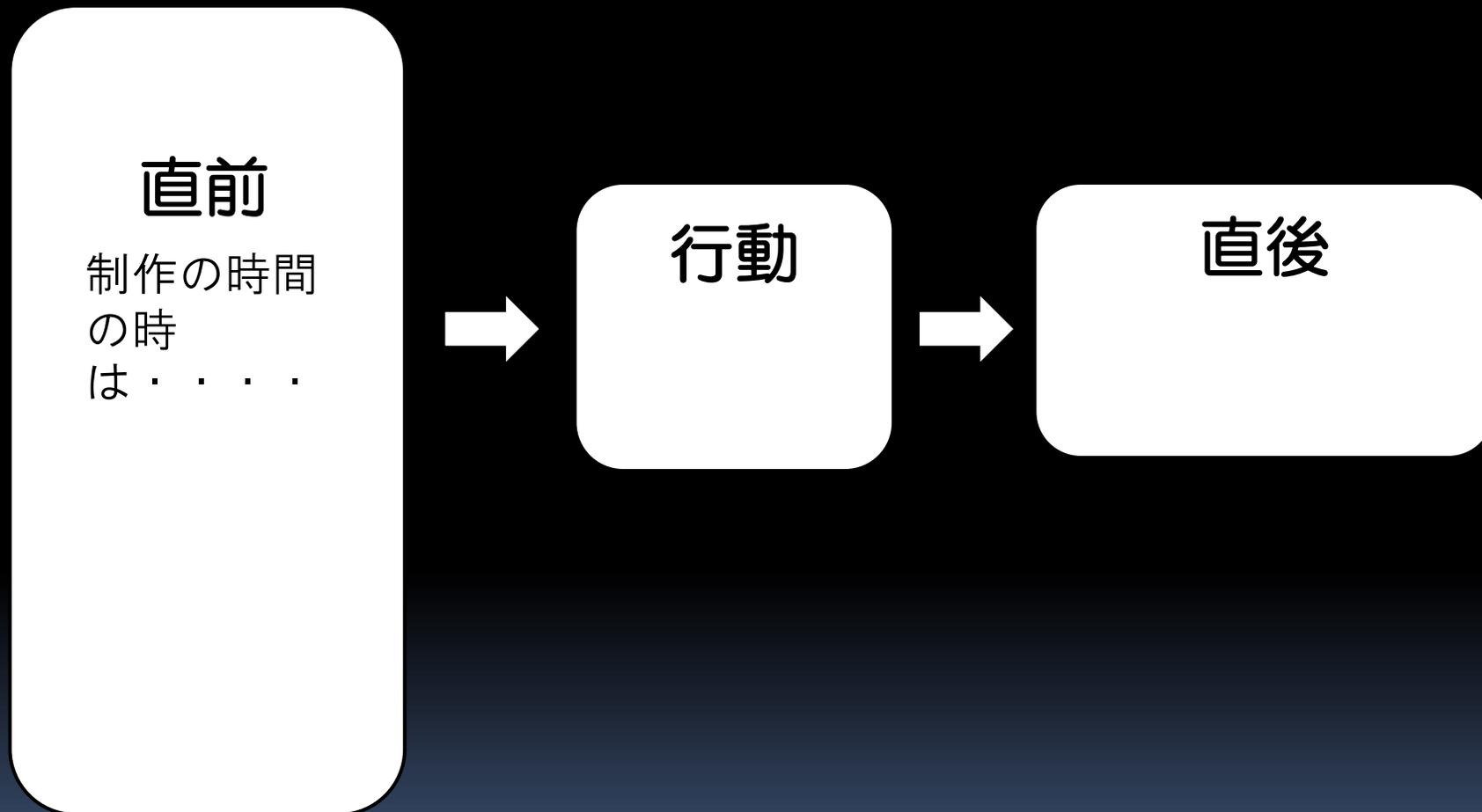
先ほどの事例



どうやら、あまり有効な手段ではなさそうです・・・ではどうしますか？

各グループで戦略をたててください

先ほどの事例





おわりに

Happyな子育てのために



有川研究室

E-Mail : arikawa@ed.niigata-u.ac.jp

Twitter: <https://twitter.com/aripiyon>

Facebook : <https://www.facebook.com/arikawa.hiroyuki>

HP: <http://arichannel.jp/>

講義で使用した資料は下記URLへ

<http://arichannel.jp/research-program/developmental-supporter-step-up/>

アップしました。

